

令和6年度 名古屋二大庭園クイズラリー

白鳥庭園問題

第一問

問題

白鳥庭園の冬の風物詩「雪吊り」。雪の重みで枝が折れないように、松の各枝に縄を張る伝統的な技法は何でしょう。

- ① リンゴ吊り
- ② 飾り吊り
- ③ ワラボッチ

答え

- ①

解説



松の雪吊り

有名なのは石川県「兼六園」の雪吊りです。雪吊りは、降雪により樹木の枝が折れないように縄で枝を保持する技法です。

白鳥庭園の冬を彩る雪吊りは、松の各枝に縄を結ぶ伝統的な技法「りんご吊り」と、雪の少ない地方で採用される「飾り吊り」という技法によって施された二種類の雪吊りをご覧いただけます。飾り吊りの雪吊りは、東京都の「小石川後楽園」で見られる「北部式」を応用した白鳥庭園独特の雪吊りです。最も高いもので10m、支柱から吊っている縄は120本となります。

支柱先端の先飾りは「ワラボッチ」といい、本来葉を束ねて作るのですが、白鳥庭園では縄を束ね作っています。

※柱の先端から各枝へと放射状に縄を張ることをりんご吊りという。※東京都の都立公園で見られる雪吊りには「北部式」と芸名を冠した庭園などでみられる「南部式」があり、どちらも実用的よりは装飾的なものとなります。※白鳥庭園の雪吊りは、2月頃まで見られます。

ワラボッチ

Yukitsuri
Yukitsuri is placing ropes around trees.
This is the act of lifting the branches of trees to prevent them from breaking due to accumulated snow.
In addition, it has been designed to decorative in Shirotori garden.
The most higher thing is 10 m, and the number of rope is 120 this.

補足

白鳥庭園の雪吊りは装飾的な目的で作成する「北部式」を参考に作成された「装飾吊り」がほとんどです。

あえて「リンゴ吊り」を回答に持ってきたのは、雪吊りといえば傘のように広がった縄を雪の重さで枝が折れないように直接枝に結ぶ物で、それをイメージされる方が多いからです。また、リンゴの実が落ちないように枝を吊っていたのを職人が造園技術に取り入れたのが起源であるため、伝統的な技法である「リンゴ吊り」に敬意を表するため、雪吊りの問題・回答を「リンゴ吊り」としました。

第二問

問題

白鳥庭園の雪つりを施してある松並木は、ある場所をモチーフに作られました。その場所の名前は何でしょう。

- A 濃尾平野
- B 揖斐川
- C 千本松原

答え

C

解説

ここは「分流の景・水郷」です。流れが穏やかになり木曾川は揖斐川（いびがわ）・長良川と流れが分かれ、中部地方を代表する大河が姿を現すスケールの大きな景色です。

広々とした濃尾平野を木曾三川の豊かな水が悠然と流れる水郷地帯の景色が広がり、奥には木曾の山々を感じさせる樹林がみられるという奥行きを感じる景色となっています。

左手には、江戸時代薩摩藩士の努力によって作られた「千本松原」をモチーフに作庭された松並木があります。千本松原は揖斐川と長良川の合流がなめらかに行われるように造られた堤防「背割堤（せわりてい）」です。この松並木に施される「雪吊り（ゆきつり）」は白鳥庭園の冬の風物詩となっています。雪吊りは、金沢から技術指導を受けはじめられました。

ここでの雪吊りは、円錐形に伸び上がった姿、飾り結びの美しさなどの造形美、そして庭師たちの造園技術をご覧ください。



白鳥庭園の「千本松原」



岐阜県海津市「千本松原」